

私は、石垣市住民投票を求める会の代表を務めている金城龍太郎と申します。振り返ればちょうど3年前の今頃は、市選挙管理委員会にて精査された署名を石垣市長に提出する、本請求を行った時期でした。14,263筆。石垣市の有権者数の約4割近い署名数です。この署名は『石垣市平得大俣地域への陸上自衛隊配備計画の賛否を問う住民投票』実施を求めるものです。なぜこの運動を始めたのか、答えは私たちの運動のテーマに集約されています。

『島で生きる、みんなで考える。大切なこと、だから住民投票』

島で生活している人たちが、島の暮らしや環境に大きな影響をもたらす問題について考え、意見を出し合いませんか、という当たり前のよう呼びかけです。そんな当たり前のことが、石垣市、石垣市議会では否定されてきました。そこで、私たちは住民発議で住民投票を実施するために、石垣市自治基本条例に基づき法定署名を集めました。それが3年前の話になります。しかし、私たちが石垣市長に請求した住民投票は未だ実施されていません。

私は7年前に石垣島に戻って来ました。実家のマンゴー農園を継ぐためです。また、私自身も両親の作るマンゴーの木のようにこの島の土に根を下ろし、枝葉を茂らせ、いつか花を咲かせる。そして、その褒美に実った果実を、家族や友人、地域に恩返しとして還元したい、という希望を抱いて戻って来ました。この島に吹く風、海と山の恵み、光り輝く星空が好きです。またそれ以上に、この島に響く歌声、誰かの笑い声、そしてここにいる人たちが好きです。私の実家と農園は陸自配備予定地から約400m離れたところにあります。この陸自配備計画を近くで見えてきました。石垣島に陸上自衛隊の駐屯地が必要かどうか、様々な意見や情報が飛び交いますが、防衛省や石垣市からは配備予定地の選択基準や理由、その議論や説明が十分されないどころか、地元住民の意思確認までも置き去りにし、配備計画は逃げるように進んでいきました。そのため、計画の賛否を巡って住民間での亀裂が深まったように感じます。私の好きな島の人々の人間関係をも引き裂くほどの大きな問題になりました。

私は、物事を進める上でプロセスが一番重要だと考えています。プロセスにかかる手間が民主主義の成熟度とも比例すると思っています。こうした島を二分するほど大きく関心の高い問題だからこそ、お互いの意思確認の場が必要です。そして、最終的に出た意思の結果を尊重し合えるのが、この島の人たちだと信じています。住民同士が笑って暮らせる島。後輩たちが帰って来なくなる島になるように、私たちはこの石垣市住民投票を求める会を立ち上げ、市の条例に基づいて署名を集めました。また、それは石垣市が怠った住民の意思確認をするというプロセスの補完にもなります。その民主的なプロセスの重要さに共感してくれたからこそ、実際に配備計画に賛成している方、反対している方、関係なく多くの島民の方が署名して下さいました。そしてこの署名には、署名してくれた人の計り知れない勇気と音を持たない叫び、希望を紡いでいくような祈りが込められています。個人情報保護の流れが強い今の社会情勢で、氏名、住所記入から押印まですることの重みを想像して頂きたいと思います。「あなたはこの署名と向き合えますか?」、皆さんに問います。私自身も自分に

問いかけてきました。そこから逃げてしまわないように、私も必死に声を上げ続けています。この住民投票実現が島内の人間関係修復、そして島のより良い未来を切り拓くきっかけになると信じて。

結びに私たち自身で作った運動のテーマソング「話そうよ」の歌詞を抜粋し、紹介させていただきます。

「話そうよ 話そうよ 今日の出来事 未来の夢  
認めよう 認めよう あなたと違う人 あなた自身も  
笑おうよ 笑おうよ その笑顔が いちばん好き  
話そうよ 話そうよ 大切なこと 島のこと」

あれから3年。私には2人の子どもができました。子どもたちの成長とは対称的に私たちの時間は止まったままです。一日でも早く私たちの求めた住民投票が実施されることを望んでいます。

金城龍太郎